



(Journal Copy Book July 25, 1884 新島襄全集VII-311)

■ 人の偉大さは学識だけではなく、私心のなさに現れる。

Man's greatness is not merely in his learning but in his disinterestedness in self.

マクシミリアン・リンゲルマンというフランスの農学者が人の手抜きについて実験をした。綱引き、荷車を引く、石臼を回すといった共同作業をする場合、人はどのような手抜きをするのかということらしい。社会心理学では「社会的手抜き」というのだそうだ。綱引き実験の場合、1対1の場合を100%とすると、2対2では93%、8対8にすると49%しか力を出さなかつたというのだ。生徒と共に掃除をしていると、「みんなできれいにしよう」と論しても必ず怠ける者がいる。そこで、黒板係、ほうき係、ゴミ捨て係という具合に仕事を分担してみると、さぼっていた生徒がきちんとしている。誰しも似たような経験を持っているのではないだろうか。

1521年神聖ローマ帝国議会に召喚された「手抜き」が苦手なアウグステイノ修道会士がいた。ここで、マルティン・ルターは「聖書に書かれていないことを認めることはできない。私はここに立っている。神よ、助けたまえ」と言つたと、と伝えられている。

大きくなつた同志社で私たちは「手抜き」をしていないだろうか。新島襄が学んだフィリップス・アカデミーのモットーは、*"non sibi"*だ。私心を抑えて、隣人のために力を尽くすこと、それが、私たちに創立者と先達たちから求められていることなのではないだろうか。

山本 真司やまもと しんじ (国際中学校・高等学校教諭)

■ Doshisha college song Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
その学徒の精神的、肉体的に、
神のため、祖国のため、生きんという
一つの崇高な目的を。
親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
われらさまようとも、汝の教訓は、
われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)